

大空に翔る

令和三年度 山形県スポーツ少年団指導者・育成母集団研修会

白鷹町本部長 向田 俊一

十一月十三日(土)、白鷹町中央公民館を主会場に、指導者・育成母集団研修会が開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度は、主会場に加え、寒河江市、新庄市、庄内町の各サテライト会場、そして自宅参加者をオンラインでつないでの研修会となりました。

表彰伝達式に続き、会津大学文化研究センター准教授 沖和砂先生より、「コロナ禍における団員とのかかわり方」と題し、講演をいただきました。

コロナウイルス感染症の広がりにより、各団の活動の自粛や大会等の中止などが続き、子供達のモチベーションを保つことが難しい状況にあつて、子供達とかかわる際の配慮すべきこと、今求められている指導者としての在り様や指導方法など、ご自身の経験を踏まえ話されました。

「コロナ禍で、子供達に懸念される、気分の落ち込みなどの抑うつ気分や不安やイライラなどの抑うつ状態、こうした変化を指導者が気付けるようにしたい。そのためには、表情、しぐさ、友人数率などに目を配ることが大切」であること。また、「子供の内面を理解しよう



「子供の内面を理解しよう



とするならば、普段からの信頼関係づくりが欠かせない。名前で呼ぶことや聴く姿勢、定期的なミーティングなど相談できる雰囲気づくりも必要」と説かれました。

そして、「指導者にあつては、支援型(トップダウン)ではなく、支援型(サーバント)での指導が重要であり、選手の考え方を尊重し、『共に学ぶ』姿勢が求められる。」とおっしゃいました。これらのことは、コロナ禍のみならず常に心掛けたいことでもありません。さらに、指導者として、「子供が自問自答する時間、つまり『考える時間』をつくり、自分を知ること、自律性を育むことが必要」とおっしゃいました。このことは、今子供達に求められている資質を育むためにも、忘れてはならないことだと感じました。

参加された方からは、大変参考になったという声とともに、「指導者の在り方、指導に必要なコミュニケーションのとりかたを改めて考えさせられた」「目標設定や何のための練習かを考えさせるなど、選手が主体になる指導の重要性を学ぶことができた」などの感想が寄せられました。

沖先生には、子供達を生かし、育てるかわり方をお話いただき、大変有意義な研修会となりました。

市町村の動き

庄内町スポーツ少年団本部事務局

庄内町は、平成十七年に旧立川町と旧余目町が合併しました。そして翌年に、旧両町のスポーツ少年団の良さを引き継いで、庄内町スポーツ少年団が発足しました。現在、単位団二十一団、四五四名の団員と一〇八名の指導者・スタッフが登録して活動しています。

町本部では、結団式やリーダー研修会、スポーツテストを企画・実施しています。表彰事業では、長年にわたりスポーツ少年団の三つの理念に基づきスポーツの振興に寄与している単位団へ「優良団表彰」、また団活動の指導・援助を続け、育成母集団等の育成にも携わり、率先して健全な団活動に努めた指導者へ「指導者賞」として表彰しています。

平成三十一年度には、町関係機関や保護者との連携のもと、庄内町の子ども達にスポーツ活動を持続可能なものにするために協議し、小中学生のスポーツ活動ガイドラインを設定しました。このように子ども達の健全育成のためのスポーツ環境の整備に努めています。

今後も学校や行政、地域スポーツクラブやスポーツ関係団体と密接な連携を大切にし、子ども達がより良いスポーツ少年団活動ができるよう取り組んで参ります。



単位団紹介

東根弓道スポーツ少年団(東根市)

代表者 橋本 久

私たち東根弓道スポーツ少年団は、山形県弓道連盟が示した、「持続的に愛好されるために弓道はいかにあるべきか？」との課題を受け、東根市弓道連盟でジュニア層への浸透を図るべく、平成二十四年度に結成され、今年度で十周年を迎えます。当初は団員二名だけででしたが、市報・公民館広報紙等で団員を募り、年々団員が増え(現在三十名)、また、山形県代表として全国中学生大会への出場を果たすなど競技実績が向上しました。しかし、「競技会で勝つただけのスポーツ少年団で良いのか？」と団内部で疑問が起こり、検討した結果、自分に合った楽しいスポーツを発見するという本来の姿を求め、「体幹」の鍛錬にこそ原点があり、また弓道教本に示されている基本事項の徹底と主軸のぶれない「体幹」の鍛錬を最優先にした団員指導を追求しようとした結論を出しました。

現在は、指導者・保護者と一丸になって、団員の鍛錬に取り組んでいます。



日新白鳩バレーボールスポーツ少年団(新庄市)

代表者 加藤 直人

日新白鳩バレーボールスポーツ少年団は、三つの小学校からの団員で構成されています。現在は一年生から六年生の十四名の団員で男女ともに活動しています。設立四十一年を迎えることが出来たのも、地域のご理解とご協力、そして保護者と指導者との信頼関係の表れと思います。



学校や家庭では味わえないことをこの団活動で体験、経験してもらいたい。生涯バレーボールに関わってもらいたい、そんな思いで活動しています。ゲームをやる上での約束があります。勝つていばらず負けてもよくよし。勝ち負けだけではなくとにかくバレーボールを楽しむ。自分達が楽しいと思えるゲームをする。子供達、保護者、指導者全員がハラハラドキドキするような全員バレーをすることです。保護者、指導者は子供達の笑顔を見て体育館へ集まります。

子供達は無限大の可能性を秘めています。我々はそれを信じ見守り、そして共に活動し切磋琢磨していきたく思います。

現在は通常の練習が出来るといふ喜びを感じ、そして感謝の気持ちを込めながら活動しています。

飯豊ドリムズ野球スポーツ少年団(飯豊町)

飯豊町には、平成二十四年まで二つの野球スポーツ少年団がありました。しかし、秋の新人戦では団員不足のため合同チームで参加することになり、そのことをきっかけとして合同で活動するようになりました。平成二十六年には町内のソフトボールスポーツ少年団も加わって、「飯豊ドリムズ野球スポーツ少年団」が誕生しました。六年生五人を軸とし、二年生までの十七人での出発となりました。その時の六年生の子供達が、中学三年生の時の中体連の県大会で優勝を果たしたこともあり、団員数も少しずつ増えてきました。そのおかげで野球はもちろん、低学年のティーボールの大会にも単独で参加が可能になり、低学年の子供達もそれを励みに一生懸命頑張っています。

指導者もそれぞれ仕事があるため、万全な体制で指導が出来ないこともあるので、お父さんお母さんの力をお借りして、みんなで頑張っています。

今後も、県大会優勝を目標に楽しく練習を続けていこうと思います。

そして、中学・高校に進学しても野球を続けて、たくさん仲間を作ってくれたいことを願っています。



十坂キッズスポーツ少年団(酒田市)

代表者 清水 和久

本団は、設立四年目の新しい団になります。平成二十九年度に三歳児からスポ少への加入が可能になったこと、また昨今のスポーツ離れ、団員数の大幅な減少、深刻化する子どもの運動能力の低下を踏まえ、何か対策ができないかという思いから本団を立ち上げました。

一つの競技スポーツに拘らずに、走る・跳ぶ・転がる・投げる・蹴る等の運動やスポーツの基礎となる動きを、遊びを交えながら学んでいます。一週間に一度ではありますが、三歳児から六年生まで参加を可能にしたことで現在二十二名の子ども達が参加しています。他競技(サッカーや卓球、バレー等)の子ども達との交流を持つようにし競技スポーツを体験する場を設けたり、保育園や小学校の保護者を対象にして講師を招いての食育教室を実施したりしました。このように本団を中心に多くのスポーツ少年団との交流を深める活動を行い、四年間の活動のうち十五名以上が競技スポーツに加入し団員不足解消の一助につながりました。

「夢あふれる未来に向かって、運動の楽しさや喜びを体感しよう」をテーマに今後も活動を続け、多くの子ども達に様々なスポーツに触れる機会を与えていきたいと思っています。



団員の夢

「ほくと剣道」



植岡剣道
スポーツ少年団(村山市)
金野 元春

ほくが剣道を始めたのは、小学一年生の時です。父が剣道をやっていて面白そうで「やってみよう」と思い、剣道を始めました。剣道を始めたばかりの頃は、すり足や足さばきがうまくできず、練習に苦戦していました。しかし、先輩方が必死になって練習している姿を見て、僕も頑張ろうと思え、先生の教え方がとても分かりやすく、次第に足さばきやすり足、素振りもできるようになっていきました。小学三年生の時、初めて先輩と一緒に面をつけての基本稽古に参加しました。基本稽古はとても疲れましたが、面をつけた経験は「もつと頑張つて、剣道を上手になりたい。」と思わせてくれました。そこから一生懸命練習をしてきましたが、まだ試合では勝てたことがありません。でもそれは、ほかのみんながほくよりもずっと努力をしているからだと思います。ほくももつと剣道が強くなれるように努力していきたいです。ほくは剣道の練習前、外が暑かったり寒かったりすると、少し行きたくないと思ってしまうことがあります。しかし、剣道の練習後は、いつもスッキリとした気持ちになります。一年生の時に始めた剣道は、今ではすっかり生活の一部となりました。これからも努力を重ねて、弱い気持ちに負けることなく、立派な剣道ができるようになりたいです。

「私の宝物」



真室川バドミントン
スポーツ少年団(真室川町)
富樫 心美

私がバドミントンを始めたのは、小学校三年生の時です。一つ下の妹と一緒にスポーツ少年団に入団しました。始めた時は、ラケットが床についてしまう事もありました。「難しいな」シャトルも上手に打てず、フレームに当たり、うまく返す事が出来ませんでした。それでも日々、楽しく練習してきました。

中学校でも、バドミントン部に入部し、スポーツ少年団でも練習をしてきました。

中学一年の後半から、コロナのため色々な大会が中止になり、練習試合、練習すらまともに出来ない日々が続きました。悲しく、やるせない気持ちでいっぱいになりましたが、中三最後の地区大会では、個人ダブルス優勝、県大会三位、団体は県ベスト8という結果でした。

バドミントンは、個人競技というイメージが強いですが、団体戦もあります。仲間との絆をとて大切に思いました。バドミントンを通じて、辛い事、苦しい事だけではなく、仲間、親、コーチ、色々な人に支えられ楽しかった事の将来に代わってほならない私の宝物です。その気持ちや、思いを忘れなければどんな事でもこの先進んでいける、私の一番の力であり自信となりました。

「夢への挑戦」



アステラーソ高阜FC
スポーツ少年団(高阜町)
阿部 桜貴

「あのピッチに立ちたい」友達にさそわれて初めて行ったモンテディオ山形の試合を観て、ほくはそう思いました。プロ選手の、ディフェンスを引きつけてからのするどいパス、キーパーとゴールポストの間へのすばやいシュートは、どれもかっこよかったです。

ほくは、三年生からアステラーソ高阜FCで練習をがんばっています。かんとくやコーチからは、「サッカーを楽しむ」と言われています。その他にも、話の聞き方やあいさつの大切さなど、たくさんのお話を教えてもらっています。五年生になって、仲間とパスをうまくつなげたり、相手のディフェンスをかわしてシュートを決めたりできるようなりました。そして、県大会出場という目標を達成できました。ほくは、かんとくやコーチ、仲間のおかげで、仲間と一緒に努力し、試合で勝つ喜びを知ることができ、ますますサッカーが楽しくなりました。

四月から六年生になります。まずは、県大会でたくさん点数を決められるエースストライカーになり、仲間と共に勝利し、みんなで喜びを分かち合いたいです。そして将来は、大舞台で活躍できるモンテディオ山形の選手になりたいです。

「アイスホッケーで培ったもの」



鶴岡アイスホッケー
スポーツ少年団(鶴岡市)
工藤 誠

私がアイスホッケーを始めたのは小学三年生の時でした。二つ上の兄がアイスホッケーを始め、練習をしているのを見て「楽しそうだな」「やってみよう」と思ったのがきっかけです。最初の頃はまだスケートもおぼつかないところだったので、初めてエントリーした大会で人数が足りないためにキーパーとして出場しました。相手は格上でシュートも速く、まともに戦うこともできなくてとっても怖かったのを今でも覚えています。

練習では、体格が他の団員より小さく周りについていけないことや怪我をしてしまうことがとても多かったです。スケートリンクは外だったために、雨の日には濡れながら活動をしていました。日々の練習の甲斐もあり中学二年生の冬に福島県との合同チームで全国大会に出場することができました。三年生の時はコロナウイルスの関係で中止になってしまいましたがいい経験になったと思います。

スポーツ少年団、またアイスホッケーというものの中で色々なものを培うことができたので、これからの人生の中で生かすことができるよう活動していきたいと思っています。

●全国スポーツ少年大会
「全国スポーツ少年大会に参加して」

藤島バレーボールスポーツ少年団(鶴岡市)

佐藤 千夜

今回初めて全国スポーツ少年大会に参加させていただきました。リモートでの開催ということもあって不安でしたが、班のみなさんが助けてくださりとても楽しく活動できました。貴重なお話を聞くことができたり普段は見られないところを見ることができたりして良い経験になったと思います。

私が一番印象に残っているのはグループでのディスカッションです。このスポーツ少年大会のテーマである「わ」(輪・話・和・環・WA!)の持つ意味についてみんなで考えました。似通った意見になると思っていましたが全く違った意見の人もいて、自分と比較しながら聞くことで様々な解釈が得られ、驚きながらもとても楽しく聞くことができました。また、それぞれの言葉が持つ意味から団員として、人として大切にすべきことをたくさん学ぶことができました。

参加して学んだことや経験したことを毎日の生活、スポーツ少年団活動に生かし、日々充実し、社会に貢献できる人になりたいです。

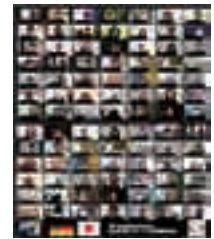


●日独スポーツ少年団同時交流
「スポーツにおけるバリアフリーの実現」

真室川北部スポーツ少年団(真室川町)

高橋 光

本年度の日独スポーツ少年団同時交流はオンラインでの開催でした。スポーツにおけるインクルージョンの実現を目指し、誰もがスポーツを行える世界にするにはどうすればよいかをディスカッションなどを通して考えました。性別・年齢・国籍・障がいの有無などの違いに関わらず、相互に違いを認め合ってスポーツに参加することが今後より求められていきます。例えば障がい者と健常者が分かれてスポーツを行うのではなく、一緒に楽しめるような環境を整備していくことでより包括的なスポーツへの参加が期待できます。組織の形態や競技区分の変更、身近なものからバリアフリーを充実させるなど、違いを認めてスポーツに取り組みには様々なアイデアがあると交流を通じて学びました。



また現地に足を運べないのは残念でしたが、バーチャル観光などを通して両国間の文化を互いに共有して交流できたとと思います。

最後になりましたが、本交流への参加にあたり山形県、最上地区協議会、真室川町スポーツ少年団からご支援いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

県の動き

表彰

○日本スポーツ少年団顕彰

〈市区町村表彰〉

大石田町スポーツ少年団

〈表彰指導者〉

工藤一男(村山市)、舟山正(小国町)、白旗学(鶴岡市)、工藤海蔵(酒田市)

〈退任者感謝状〉

菅原秀(新庄市)、大崎顯一(川西町)

○山形県スポーツ少年団表彰受賞者

〈優良団〉

まほろばアスリートクラブ(高島町)、鶴岡アイスホッケー(鶴岡市)、余目空手道(庄内町)

〈功労者〉

高砂晃(寒河江市)、元木真澄(新庄市)、柴田卓朗(川西町)、大内新作、富樫忠(鶴岡市)

事業

○スタートコーチ(スポーツ少年団)

養成講習会 一三五名受講修了

○県指導者・育成母集団研修会

十一月十三日 オンライン・四地区サテライト会場

〈参加者〉一六六名

○日独同時交流【派遣】

七月二十五日～八月一日 オンライン

〈団員〉高橋光(真室川町)

○シニア・リーダースクール

七月四日、八月十七日～二十日 オンライン

〈団員〉金子翔磨(川西町)、工藤誠(鶴岡市)

○全国リーダー連絡会

六月十二日～十三日 オンライン

〈指導者〉本間歩(鶴岡市)

○全国スポーツ少年大会

九月十九日～二十日 オンライン

〈団員〉秋庭優那、佐藤千夜(鶴岡市)

○全国スポーツ少年団競技別交流大会

【剣道】(第四十四回) 中止

三月二十六日～二十八日 高知県

〈参加団〉東山錬成会、新庄地区柔剣道錬成会(新庄市)

【バレーボール】(第十九回) 中止

三月二十七日～三十日 島根県

〈参加団〉松陵(酒田市)

○東北ブロックスポーツ少年団競技別交流大会

【軟式野球】

七月三日 福島県

〈参加団〉三泉キングベアーズ(寒河江市)

【サッカー】

七月十八日～十九日 岩手県

〈参加団〉米沢フェニックスサッカー(米沢市)、モンテディオ山形ジュニア庄内(鶴岡市)

【ミニバスケットボール】秋田県 中止

二月二十六日～二十七日(女子)

〈参加団〉成生ミニバスケットボール(天童市)、YUZAgirls(遊佐町)

三月五日～六日(男子)

〈参加団〉

日新ミニバスケットボール(新庄市)、

致道男子ミニバスケットボール(鶴岡市)

市)